

久留里西往還・裏十中往還

久留里西往還裏道とは、鎌倉古道の須軽田坂近くで、牛を飼っている田中さんに話を聞いて調べ始めたルートである。

桜台三丁目から近い緑町の遠矢さん宅の前の三叉路を左に進む道である。三叉路を左折して約1.8km進むと、鎌倉古道上総路を横切る。交差点角には細山会館があり、直進すると広大な畑地の中に入る。進行右側には、広大な埋立地が広がっている。バブル時代にはここにゴルフ場の建設計画があったようだが、話は消えたようだ。

やがて、600m進むと、県道300号線を横切り、六万坪と名付けられた開墾地に入る。さらに600m程進むと「久留里中往還」と三角に交差する。三叉路から「馬乃坂」を約300m下ると、川原井の水田地帯に入る。県道143号線を横切ると、登り坂に入りやがて右手に「寺原台不動尊」が見えてくる。ここから先は台地の上になるので、高谷への下りになるまで平坦な道になる。現在は進行右手に「東京ドイツ村」が見えている。

花立台には民家があるが、農業に関わる関係の会社であるようだ。花立台から丘を下ると、高谷台の民家の間を通り抜ける。

いよいよ久留里往還も、すべての道を通ってきたものが、一緒になる。色々思惑があり、出来た道であると思う。近世では、殿様の通る道であったろうし、大昔から地域の方達が生活道路として利用してきた道に違いない。表にしる裏にしる多くの商売人（商人）も、自分たちの利用し易い道を結果的に造ってきたのだろう。

ルート探しは、何れも徒歩で六回に及んだが、その度に道の傍の方々に話を聞いて辿りつけたというのが正直なところである。

高谷では偶然にも、畑仕事をしていた天羽田の広原さんの妹さんという方に話を聞くことが出来た。高谷に嫁入りして来たと話していた。

妹さんは、昭和8年生まれというから私よりも10歳年上の83歳である。

「大正道路が出来るまでは、久留里道を通っていた」という言葉で、新道が大正時代に出来たことを知ることが出来た。

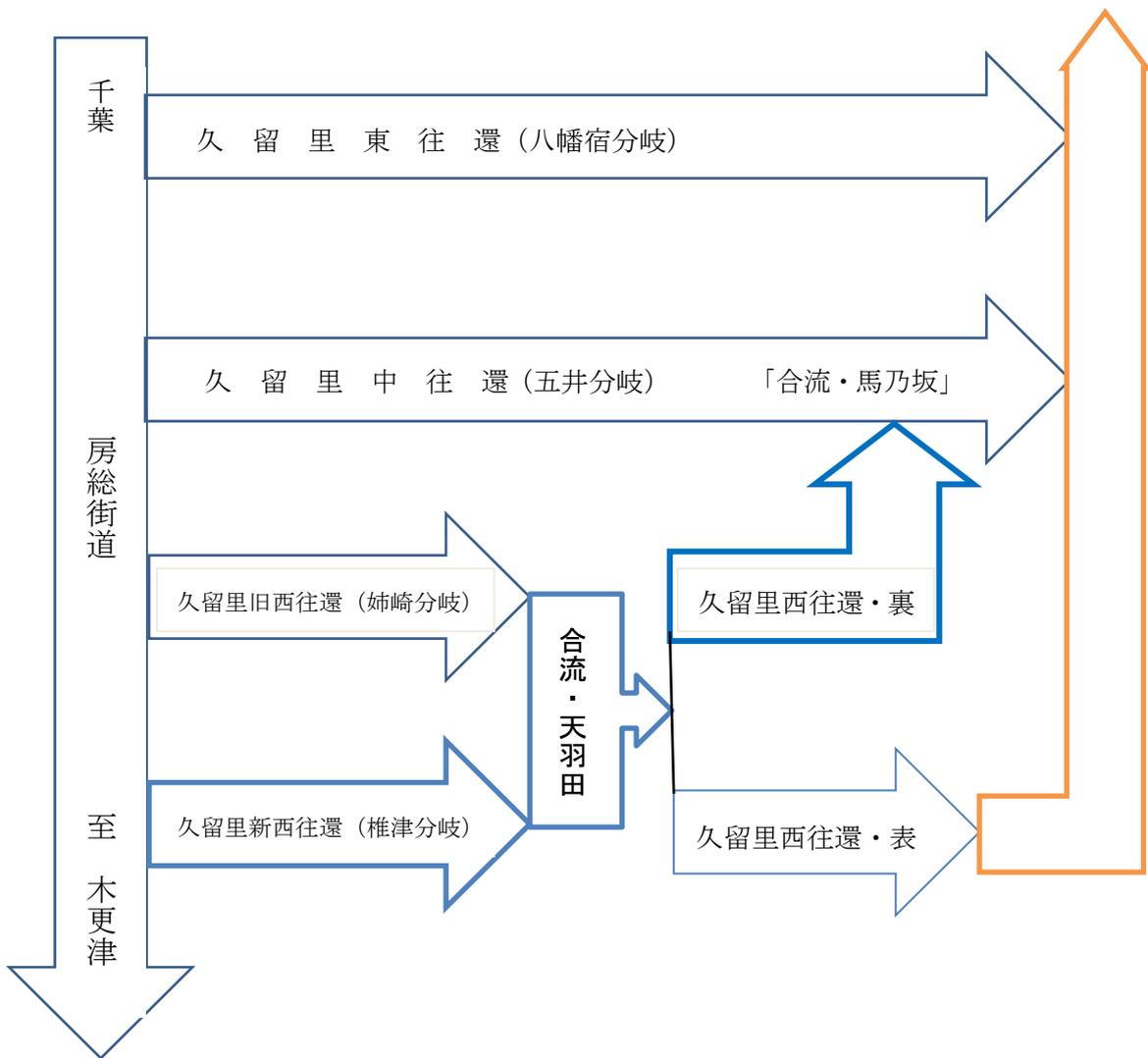
更に、一回目の探索では幽谷通りを進んで、途中からこの大正道路に入ったが、曲がり角にある、牛を飼育している40代？の方に「この道路は、旧久留里道ですか？」と問うたら、「この道路は新しいですよ」と教えてくれた。

関東迅速測図（明治15年5月測量図）で確認しながら、ルートを探っていたが一回

目は見事に外れたことになる。

二回目は更に幽谷通りから、大正道路に入らずに直進し、今の房州横断道路に交差するまで進んでしまったが、現在の久留里街道に出るまで相当の距離を西進しなければならなかった。

車もない時代にこんなに不便な遠回りをするはずがない、と思ったのは正解だった。



久留里西往還・裏



左：

この写真の場所は、三叉路になっている。天羽田で牛を飼っている田中さんに教えてもらった、表と裏往還の別れるところである。

右に行くと「久留里西往還・表」、左に行くと「久留里西往還・裏」。角には右に「青面金剛」、左に「道標」が建っている。道標は彫が浅いのか、風化が進んだのか残念乍、文字は今の私には判読が出来ない。

2019年2月9日小雪が降った。

12日道標の側を通って、読めない部分を雪でこすり洗いをしていたら少し乍読めた部分がある。

道標

上の写真で、矢印方向から、即ち久留里方面から来た人に読める面には、右記のように刻まれている

註：1間は1.8m

従って10間は18mになる。

*他の3面は、残念ながら今のところ読めていない。 2019/12/20

西

十間ニテ分岐点アリ

左 長浦村代宿

右 山谷経テ姉崎



左：写真1

「久留里西往還・裏」の出発点もこの三叉路から始まる。

写真右側に向かうと「久留里西往還・表」、左側に向かうと「久留里西往還・裏」である。

右：合流点から約2丁東に進んだ十字路にある道標。

手前：合流点方向（西）

奥側：久留里方向（東）

左側：5差路方向（北）

右側：久留里往還・表に交差する（南）



大正？四年

姉崎町椎津山谷



東：川原井及戸田

西：約二丁ニシテ左長（浦？）

右姉（崎？）

*一丁は約109m

南：天羽田経テ平（岡？）

北：深城ヲ経テ不（入斗？）



左：

「久留里西往還・裏」出発点から約1、8 km進むと、鎌倉古道と直交する。

角には細山集会場があり、桜の老木が毎年花を咲かせ、通る人達を楽しませる。

この界限は比較的車の往来が少ないので、朝に夕に散歩を楽しむ人たちが多い。



左：

鎌倉古道との交差点を過ぎて南下すると、広い畑地に出る。

道の左側には昔の川筋が一本残っているが、川面は台地の標高72mから15m程低い。

道の西方は大規模な埋め立てが行われ、こんもりとした丘になっている。ゴルフ場の計画があったが、そのままになっている。

右：

ここ等辺りは開拓地で「六万坪」と呼ばれていたようだ。

この畑地は600m程続く。

畑には大根や、スイカ、ニンニク、サトイモ、落花生、トモロコシ等々近在と同じような作付が行われている。

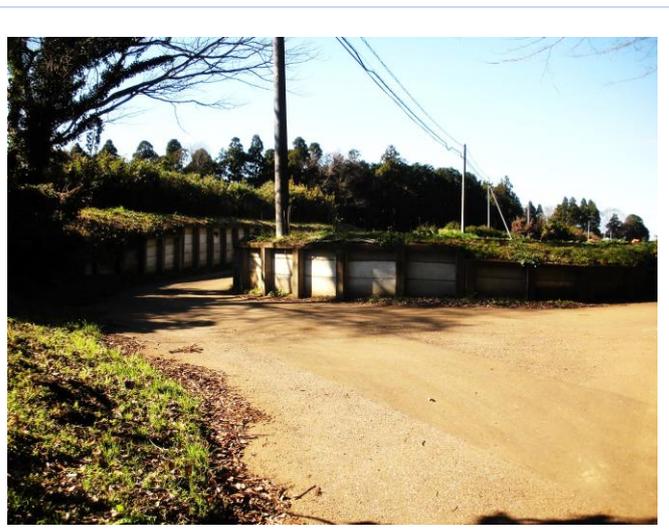
やがて道は県道300号線と直交する。





左：
 県道300号線を過ぎて道は
 「馬之坂（うまんさか）」方向
 に向かう。
 県道300号線を横切って直
 ぐ右側には太陽光発電所が建
 設されている。この辺りの標高
 は約75mである。

右：
 広大な畑地が坂の下り口
 まで約600m続く。
 右手には、今はあまり手入
 れのされていない梅林が
 ある。



左：三叉路
 馬之坂側から撮った
 三叉路。
 久留里西往還・裏
 （左：あねさき）、と
 久留里中往還
 （右：ごい）が合流
 するところである。

「馬之坂」合流点から先は久留里中往還である

立野から久留里迄

千葉県教育委員会 千葉県歴史の道調査報告書15号

立野から馬來田迄

県道300号、姉崎・鶴舞線を横断し、舗装された道を800m程進むと、やがて右に入る小道が見える。これが久留里道である。北を姉崎ゴルフ場、南を八幡ゴルフ場に挟まれた道を進むと川原井の御領に達する。御領から六万坪の開墾地に入る斜め十字路の電柱下に「地藏尊像（嘉永3年銘）」と「供養塔（明和4年銘）」が並んでいる。

供養塔は道標を兼ねており、正面に「泰造立地藏菩薩 明和四亥天 十月大吉日」右側に「左 ひがし方 方いとみみち」、左面に「右 ミなミ 方 くるりみち」と刻まれている。道標にしたがい、左右に畑を見ながら南へ進んで行くと、馬之坂に下って行く三叉路に出る。

この三叉路で、久留里中往還と久留里西往還の裏久留里と一緒にすることになる。



三夜塔

上： 馬之坂 2016/5/13

写真奥が三夜塔で手前が道標

馬之坂道を下り始めてすぐ、道の右上の草地に駒形の「三夜塔（文政13年銘）」と同年銘の四角柱の道標が、共に正面を坂下に向けて相前後して建っている。道標正面には「右 いまとみ 左 あねさき」右側面に「文政十三年寅年」左面に「願主 石工 大嶋九兵衛」といづれもはっきり刻まれており、読む事が出来る。

右：袖ヶ浦市川原井
長さ約280mの馬之坂
(通称まんぎ坂：万騎坂?)
を下ると川原井の水田地帯
に出る。
大分急な坂である。



右：袖ヶ浦市川原井
馬之坂を下った所に民家が左
右にある。
この辺りの水田は現在はポン
プを使用して揚水している。
昔は相当遠くから引水してい
たのだろう。



下：袖ヶ浦市川原井
川原井台地遠景
右下：袖ヶ浦市川原井
県道143号線の向こうに
は、川原井台地への登り口が
見えてくる



馬之坂を下ると水田地帯に出る。坂を下った三叉路の左右には民家があるが、下ってきて右側の家は新しいが、人は入っていない空き家である。

水田地帯を直進すると県道143号線を横切る。と、川原井台地方向への道が延びている。坂道の登り口左側に「馬頭観音（安静三年と元治元年の銘）」と、「子安観音（天保十五年銘）等四基の地蔵立像がある。

川原井台地への坂を上りきると、右手に東京ドイツ村が見えてくる。その手前に「寺原台観音」が鎮座している。参道入り口右側には高さ170cmの笠付四角柱の庚申塔がある。台石正面に「河原井村女講中」右面に「延享元甲子十月吉日」と刻まれている



左：袖ヶ浦市川原井

県道143号線を横切って、川原井台地に向かう上りに入る。ここから先は民家が無い。

台地は75mから90mの標高で、これが房総半島が、海から顔を出した時の平均的な高さではなかろうか？



左：

川原井台地に向かう坂道。

急ではない。坂道を上り切った右側に「寺尾台観音」がある。

参道入り口右側には笠付四角柱の庚申塔がある。台正面に「河原井村女講中」

右側に延享元申子十月吉日と刻まれている。

又、並びに享保十七年銘の手水石がある。



左：

神社を過ぎると台地になる。右手には東京ドイツ村の観覧車が見えてくる。

明治の頃、この台地では草競馬が行われていたこともある。川原井村は今富村と共に、昔は久留里往還の継場であった。

「川原井村は、昔人足の継場であったのか、人夫に出た話や荷物を運ばされて困った話」などが郷土史家の落合 忠一氏の「久留里道中往還と市原」によって指摘されている



左：袖ヶ浦市林

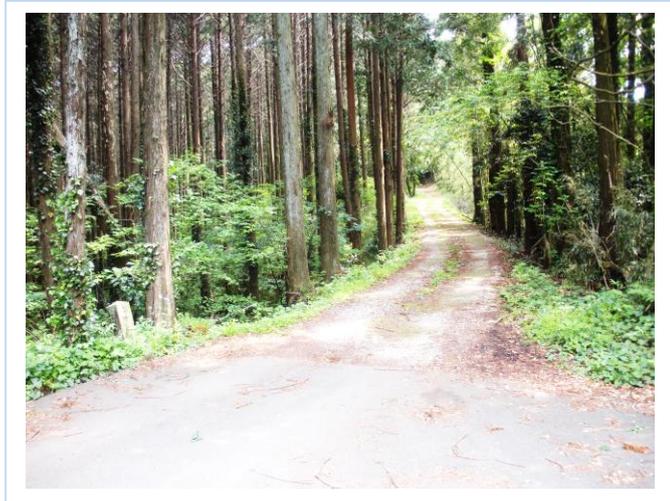
大分広い台地である。東京ドイツ村のある所は袖ヶ浦市永吉になる。この台地は不動尊の名前にもなっている

「寺原台」と呼ばれたこともあるのではなかろうか？

右：川原井

ここから未舗装の山道に入るが、山道入り口の左手には、正面を小広場に向けた形で道標がある。

写真の舗装路と未舗装路の堺辺りの左端にやや、林側に傾いて見えているのが道標である。



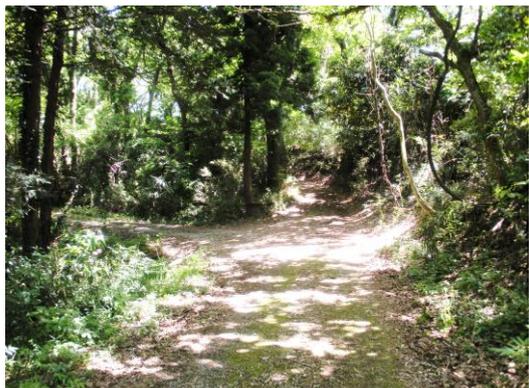


左：川原井
 道標正面
 「南無阿弥陀仏
 天明八申年十一月吉日」
 右側
 「東 くるり道 左 うしく道
 川原井村願主清兵衛門、茂八
 長八、市之丞」
 左面は
 「西 右江戸道 左 木更津道
 根澄山念仏講中」
 と刻まれている

右：川原井
 山道に入ると、見た目は峯道となっているが、左右は深い谷筋であるので、人の手で峯筋を造ったのではなかろうか？。道の左右には木が植えられていて崩れ防止策とも思えるからである。

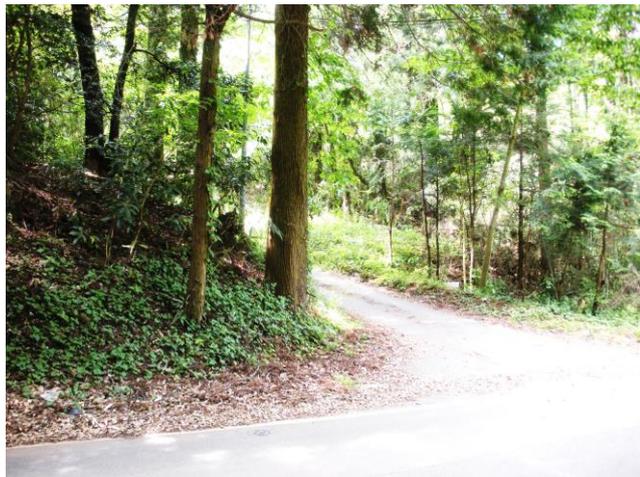


右：川原井
 山道を進むと、道は左右に分かれる。道標通り「左」に進むと「うしく道」となる。久留里道は直進である。以前に左に進み、ついには牛を飼っている方の家の傍の大正道に出て「うしく道」を納得している。直進すると、やがて民家のある「花立ち台」に出る。



右：高谷

「花立ち台」には民家が5戸ほどあるが、近くには大規模な太陽光発電所がある。やがて道は大正道に出る。本来の久留里道はここに出たのではない。しかし、辿ろうとして藪の中を覗いてみたが探しきれなかった。



右：高谷

大正道に出て少し高谷側に進むと、又左に入る道がある。この道は台地のへりを進み、現在の「森のまきばキャンプ場」につながっている。キャンプ場に向かって右側は南面で傾斜地になっているので、ここも太陽光発電所になっている。



右：高谷

探しても見つからなかった久留里みちは大正道を横切って写真奥の杉林の中から抜けて出てきていたようだ。写真はその道であるが、今は農道となっている。





左：袖ヶ浦市高谷

花立台から高谷の斜面を下ってきた久留里道はやがて平地に出る。

近くで畑作を行っていたご婦人に話を聞いたら、なんと市原市天羽田の広原さんの妹さんで高谷に嫁に来たという。ご婦人は昭和8年生まれである。

大正道が出来る前はこの久留里中往還道を良く通ったものだと話してくれた。



左：高谷

山から下ってきた道は、住宅地の間から十字路に出る。

右：高谷

十字路を直交して進む道の奥には、現在の久留里街道が通っている。

ここで、久留里西往還も久留里中往還も一緒になって、久留里に向かうことになる。

完全にトレース出来なかった道は、久留里西往還・表では、平岡小学校から高谷堤までの一部。

久留里中往還では、花立台から高谷へ抜ける道である。

